

正誤表

Monthly Book Orthopaedics 32/10 (2019年10月号)におきまして、下記の図の表示順に誤りがございましたので、ここに訂正をいたします。

著者の先生、ならびに読者の皆様には深くお詫び申し上げます。

2019年10月 株式会社 全日本病院出版会

【訂正箇所】 P.21 図 21-b、c の入れ替え

以下に、訂正後の図 21 を掲載いたします。

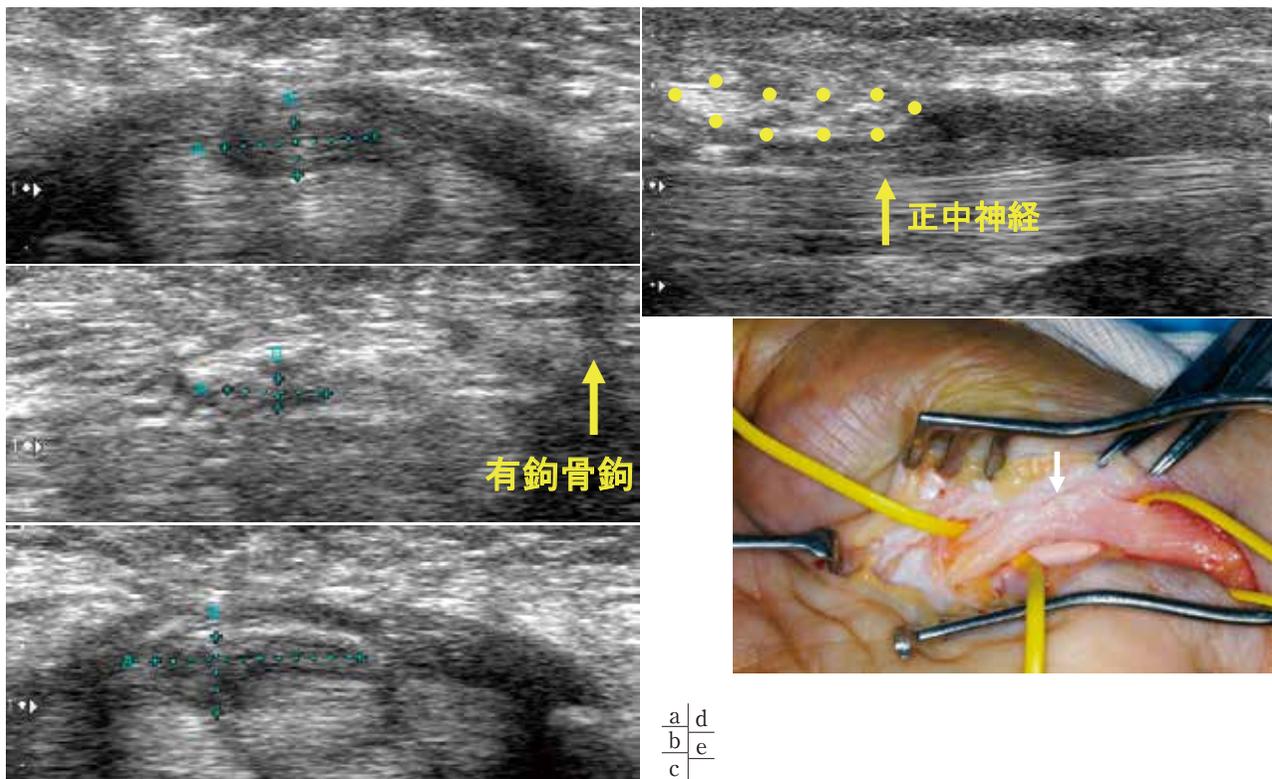


図 21. 遠位不全切離(前腕進入 1-portal 鏡視下手術後)

横断像で神経の長径×短径(青点線)は有鉤骨鉤の近位(a)では6.3×2.2 mmである。遠位に追跡すると、同鉤(b)では4.2×1.2 mmと狭小化している。同鉤を遠位に越える(c)と8.6×3.2 mmと拡大するため、bで不全切離があることがわかる。矢状像(d)ではbの部位で未切離の屈筋支帯(ドット)があり、神経(矢印)が圧迫されている。手術(e)で、不全切離部に神経の圧迫と癒着がある(矢印)(左:遠位, 上:橈側)。

(第35回末梢神経を語る会「末梢神経の画像診断と臨床応用」記録集より転載)